

12月の果実の見通し

区分 品目	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		コメント
	前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年 入荷量 (t)	前年 占有率 (%)	
みかん類	36,862	100	35,594	228	105	218	-	0.0	愛媛、長崎、熊本、和歌山、静岡産中心で全体の9割を占める。早生は12月上旬終了となる。中旬から始まる中生種も着果、生育ともに順調である。愛媛はM・Lサイズ中心で前年並みの肥大状況となっている。長崎、熊本は着果・肥大状況とも良好。全体の入荷量は前年並み、価格は前年をやや上回る見込み。
りんご類	5,839	130	6,883	333	90	251	540	9.2	青森、長野、岩手、山形産中心の入荷となる。品種はふじが約8割を占め、ジョナゴールド、王林なども出回る。青森のふじは11月末から本格化し、32・36玉中心となる。全体の入荷量は前年を大幅に上回るものの前年並みで、価格は前年をかなり下回る見込み。
いちご類	2,719	96	2,991	1,574	102	1,538	-	0.0	栃木、福岡、佐賀、茨城、静岡産中心の入荷となる。全体的には、夏季の高温による花芽分化の遅れや生育遅れが一部で見られるが、概ね生育は順調。栃木は2Lサイズ中心で、中旬までは順調な出荷となる。全体の入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並みの見込み。
かき類	1,781	120	2,609	357	80	290	36	2.0	福岡、奈良、岐阜、愛媛、和歌山産が中心となる。品種は富有柿が約8割を占める。福岡、奈良の富有柿は12月中旬から冷蔵品に切り替わるが、在庫量は前年並みで、少なかった前年を大幅に上回る見込み。全体の入荷量は前年を大幅に上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。
メロン類	922	95	1,014	774	102	784	-	0.0	熊本、静岡、宮崎産が中心となる。品種はアールスメロン、アンデスなど。熊本のアールスメロンは燃料代の高騰が影響し、作付面積が前年より10%程度減少している。静岡の作付は前年並、生育は順調で6玉の7～9kg台中心の見込み。全体の入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並の見込み。
ほしがき	478	107	608	2,221	90	1,801	36	7.5	長野、山梨、富山、山形産が中心となる。長野は全体に中玉から小玉が多いが、出荷量は前年をかなり上回る。各産地とも原料柿が前年より多いことから、出荷量も前年を上回る。全体の入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。
西洋なし (ラ・フランス)	537	75	670	328	109	280	501	93.3	山形産中心の入荷でほぼ全量を占める。冬季の雪害、着果不足、夏の干ばつによる小玉化等が影響し、出荷量は前年の70～80%の見込み。果実の大きさは18・20玉が中心で、果実の仕上がりは良好である。全体の入荷量は前年を大幅に下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。